



## がん診療病院連携研修 研修病院募集説明会

令和3年12月16日、20日  
日本臨床腫瘍薬学会 実地研修委員会

**\*実施要綱・コアカリキュラムをお手元にご用意の上、ご参加ください**

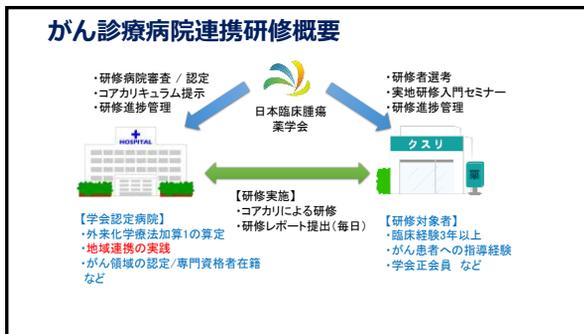
1



## 研修の目的

本研修は、がんの専門的な知識や技能に加え、臨床経験を修得し、**病院と緊密に連携してがん薬物療法に対応できる薬局薬剤師を養成することにより、外来がん治療を安全・有効に施行するとともに、地域がん医療において、患者とその家族をトータルサポートできることを目的とする**

2



3

### がん診療病院連携研修実施状況

①モデル研修:令和3年1月18日～3月2日(全30日連続)

- ・研修登録病院数:51施設
- ・研修修了者:31名(応募者:48名)
- ・研修修了6か月後評価アンケート実施中

②令和3年第1期:令和3年5月1日～令和4年4月30日

- ・研修形態:30日連続研修または通年研修(週1回など)
- ・認定研修病院:109病院(受入総数:261名)
- ・研修応募者:153名
- ・研修開始者:122名(決定率:80%)

4

③令和3年第2期:令和3年11月1日～令和4年10月31日

- ・研修形態:30日連続研修または通年研修(週1回など)
- ・認定研修病院:130病院(受入総数:183名)
- ・研修応募者:108名
- ・研修開始者:76名(決定率:70%)

5

### 研修病院の状況

現在、130施設が研修病院となりました

	令和2年度	令和3年度		令和2年度	令和3年度		令和2年度	令和3年度
北海道	3	7	富山県	0	0	岡山県	1	3
青森県	0	1	石川県	0	1	広島県	3	5
秋田県	0	3	福井県	0	0	山口県	0	0
岩手県	1	0	長野県	2	5	徳島県	0	0
宮城県	2	4	岐阜県	0	1	香川県	0	0
山形県	0	0	静岡県	1	1	愛媛県	1	2
福島県	1	2	愛知県	1	3	高知県	0	3
茨城県	1	2	三重県	0	3	福岡県	2	6
栃木県	2	2	滋賀県	1	3	佐賀県	0	0
群馬県	2	2	京都府	1	2	長崎県	1	2
埼玉県	4	9	大阪府	2	9	熊本県	0	0
千葉県	2	4	兵庫県	3	6	大分県	1	3
東京都	6	13	奈良県	0	0	宮崎県	0	1
神奈川県	4	11	和歌山県	1	2	鹿児島県	2	6
山梨県	0	0	鳥取県	0	0	沖縄県	0	1
新潟県	0	0	島根県	0	2			
						合計	51	130

6



## 研修施設要件（任意項目：届け出）



- ・がん診療連携拠点病院加算
- ・がん患者指導管理料ハ
- ・病棟薬剤業務実施加算
- ・連携充実加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来緩和ケア管理料
- ・緩和ケア病棟入院料又は緩和ケア診療加算

13

## 実際の研修計画記載例



【全体の受入人数4名の場合の記載例】

研修 パターン	研修期間 連続/週1~4 /各週など	1日の研修の長さ 昼日/半日 〔午前/午後〕	開始(予定)日 (未定の場合は 予定時期)	第1期の全体受入人数	
				受入不可期間 があれば (例) 8月	4名
(例1)	連続	終日	11/1	なし	1名のみ
(例2)	週4~5回	半日(午後)	4月頃	8月	1名のみ
(例3)	週1回 (主に月曜または水曜)	終日	1月中旬	なし	上限2名
(例4)	連続	終日	8月上旬	収益は除く	上限2名

14

## 申請書の記入方法



日本臨床腫瘍学会 がん診療連携拠点病院研修施設認定申請書

研修する施設(研修センター)への申し込み先

この施設はがん診療連携拠点病院であるか(研修施設)

研修施設ががん診療連携拠点病院であるか(研修施設)

特記事項(研修業務に関して、研修施設が研修事業を実施する場合は記載してください)

原則、記載された内容をそのままHPIに掲載します

・研修施設の特徴を是非記載してください

・「薬剤師会加入薬局」に限るなど所属団体等による受入れ制限は記載できません。

・学会で規定する以外の書類提出が必要な場合は、ご記載ください

例) ワクチン接種証明、PCR陰性証明  
感染症抗体検査結果、契約書類

15

## 研修コアカリキュラム



目標A: がん医療における薬剤師の役割を理解し、医師、看護師、栄養士などの医療従事者との連携の必要性を理解できる。

目標B: 患者に良質かつ安全ながん薬物療法を提供するため、外来化学療法中の個々の患者の状態を的確に把握するとともに、抗がん薬の種類、投与量、投与期間等の設定・変更や支持療法の選定などを医師に提案できる。

目標C: 外来がん薬物療法における病院と薬局の連携システムを理解し、自施設での連携の質的向上に貢献できる。

16

## 研修コアカリキュラム



目標D: 曝露対策の必要な抗がん薬の取扱いなどに関する知識を修得し、自施設の曝露対策に活用することができる。

目標E: 患者や家族などからのがん薬物療法に関する相談に、わかりやすい言葉で説明できる。

目標F: 国内外のがん医療に関する最新の情報収集を行い、活用することができる。

17

## 研修終了までに修得すべき専門的知識



研修者は、この実地研修およびこの実地研修および別の講義研修の受講等の自己研鑽を通じて、乳がん、肺がん、胃がん、大腸がんおよび血液がんについて、以下の内容を修得するものとする。なお、各項目について、研修病院での講義研修の実施を必須とするものではない。

実地研修入門セミナー  
+ (各種JASPOセミナー)

コアカリキュラムによる  
実地研修

専門的知識の修得

18

## 実地研修入門セミナー



研修要綱に記載している5がん種(+α)は事前に研修者がe-ラーニングで学修する。JASPOスタートアップセミナーと同レベルの研修。受講しないと研修が開始できない。

\* 研修病院の指導薬剤師もe-ラーニング閲覧可能

- ①肺がん
  - ②乳がん
  - ③大腸がん
  - ④胃がん
  - ⑤白血病
  - ⑥悪性リンパ腫・多発性骨髄腫
  - ⑦肝胆膵がん
  - ⑧オンコロジーエマーゼンシー
- ※赤字は令和4年追加コンテンツ



19

## 研修記録管理



①研修者は、研修日に所定の研修記録を記載し、研修管理サイトにアップする。研修記録のコアカリキュラム履修は、指導薬剤師と協議の上、選択する。

がん診療病院連携研修 研修記録				がん診療病院連携研修総合記録			
氏名	所属	研修	研修開始日	氏名	所属	研修	研修開始日
研修者ID	研修者ID	研修者ID	研修者ID	研修者ID	研修者ID	研修者ID	研修者ID
研修日	研修日	研修日	研修日	研修日	研修日	研修日	研修日
研修時間	研修時間	研修時間	研修時間	研修時間	研修時間	研修時間	研修時間
研修内容	研修内容	研修内容	研修内容	研修内容	研修内容	研修内容	研修内容

20



### 研修病院の確認画面

ログイン方法のメールが申請担当薬剤師、薬剤部門責任者宛にメールが届きます

21

## 今後の流れ



### 1) 第1期募集

2021年12月13日(月)～2022年1月14日(金)：研修病院募集

2022年1月下旬～2月上旬：研修病院認定および公開

2022年2月上旬～3月上旬：研修者募集期間

2022年3月中旬～下旬：研修者決定

2022年5月9日(月)以降：随時研修開始

(研修病院が提示または研修者と協議したスケジュールで開始)

22

ここからは、Q&A になります



23

## 病院と薬局で独自に契約することは可能ですか？



がん診療病院連携研修として認定されるのは、学会で実施する研修のみとなります。

ただし、病院の事務手続上、必要な契約等については、研修者募集時に提示していただき、要綱の内容を逸脱しない範囲内で個別に対応します。

24

### 病院から研修者を指定することができますか？

現在の要綱では、病院(研修元)から研修者を指定することはできません。これは、他団体が実施している多くの研修と同様です。

なお、研修者の素行不良など研修継続に支障をきたす場合は、研修病院から研修者の所属薬局の責任者に改善を申し立てることができます。必要に応じて、学会でも対応します。

25

### 研修者の臨床経験はどの程度ですか？

臨床経験3年以上を条件にしています。

また、がん薬物療法に関する服薬指導経験および本コアカリキュラムを実施するにあたり支障がない知識を有していることを薬局責任者が書面で記載しています。

なお、令和4年度からは、がん薬物療法認定薬剤師または専門薬剤師の取得目的があることを研修申込条件に追加します。

26

### 研修病院に認定されると必ず研修者が来ますか？

研修者は公募のため、地域の片寄りが生じる可能性があります。研修病院には、お手数ですが毎年、研修者の募集可否と研修方法の回答をお願いします。

27

### コアカリキュラムはすべて実施する必要がありますか？

研修会やオンコロジーエマージェンシーなど実際に経験できなかった内容は、指導薬剤師が説明し、その内容を研修者が研修記録に記載することで履修したとみなされます。

28

### コアカリキュラムをすべて実施することは研修病院の負担とならないでしょうか？

一定の負担となることは想定されます。

現在、研修を実施している多くの病院が様々な工夫をしています。今後、研修受入れ病院の事例集などを作成予定ですので、それらを参考にカリキュラムを検討ください。

※IASPO2022学術大会でシンポジウムを企画しております

29

### コロナの影響で、直前で研修が受けられない可能性があります。大丈夫ですか？

今後の状況次第では、やむを得ない場合があると考えます。

研修受入れが、施設として不可となった場合は、速やかに学会事務局にご連絡ください。なお、研修生には、あらかじめ、研修不可になる場合があることに関する同意を得ます。

①研修者が決定前の場合:学会への連絡のみ

②研修者決定後の場合:学会へ連絡

→ 時期変更による研修の可否

→ 研修者と調整(学会)

30

### コロナの影響で、研修開始後に中断となった場合はどうなりますか？

原則、研修可能となった時点で再開をお願いします。

研修終了が実施期間を過ぎる場合は、個別に対応します。

31

### 研修者の都合で欠席した場合は、どうなりますか？

30日間(30単位)を修了を原則とします。

ただし、**欠席理由がやむを得なく(研修者の自己都合でない)、研修病院がすべてのコアカリキュラムを修了していると判断した場合は、学会で検討の上、研修修了証を発行します。**

なお、追加の研修が必要となった場合の対応は学会で調整します。

\* 欠席理由の正当性は学会が個別に判断します。

32

### 最後に

がん診療病院連携研修は、がん患者さんが安心して治療を受けられる環境を整備する上で重要な研修と考えています。年間200人程度の薬局薬剤師の皆さんに研修を受けていただきたいと考えています。その成功には、研修病院の協力が必要不可欠です。研修病院の先生方に多くの負担をおかけしますが、是非ともご協力のほど、どうぞよろしくをお願いします。



33

以上です。  
より良いがん医療推進のために  
是非お力添えをお願いします。



34